

道徳通信

～「小さな出来事」～

愛西市立八開中学校

道徳通信

令和3年11月19日

～道徳「誰に対しても公平に接するためには、どんな考えが必要だろう？」を通して考えました～

1917年 第一次世界大戦がヨーロッパで起こっています。中国は戦争で負けたり、他国の戦争に巻き込まれたりと厳しい状況でした。中国人でも、役人などの一部は裕福な生活ですが、多くの人々は質素で貧しい生活でした。「身分の差」がはっきりとある時代の話です。

「私」はおそらく国家の要職に就く社会的地位の高い男です。田舎から北京に出て出世を重ねるうちに尊大で横柄な態度が身に付いてしまったと語っています。ある日、「私」が急ぎの用事で人力車に乗ります。車夫がスピードをあげた時突然、老婆が人力車のかじ棒にひっかかったように倒れ込んでしまいます。みすばらしい老婆の安否よりも、自分の都合を優先しようとした「私」は「なんともないよ。やってくれ。」と先を急がせます。しかし、車夫は人力車を止め、疑わしい老婆を助け起こし派出所に連れて行くのでした。その時、「私」はほこりまみれの車夫の後ろ姿が急に大きくなったように感じたのです・・・。

私に恥を教え、私に奮起を促し、しかも勇気と希望を与えてくれた「小さな出来事」。「私」の心情の変化について、Jamboardを使って話し合い、学習テーマに迫りました。

●● ●●くん

物語の中の私は偉くなっているので許された(?)けど正しいことをしているわけではなかった。車夫は許されないかもしれないけど人として正しいことをしていた。だから、公平に接するためには、親切心を持って人として正しいことをすることが大切だと思った。また、自分もそうしていきたいとも思った。

●● ●●くん

公平というのは、平等と違って、一人一人の立場を尊重して皆が納得いくことをめざすのが公平なんだと思った。平等も公平もどちらも大事にすることで、本当の平和がくるんだと思った。(今の自分は公平に)できないと思う。なぜなら、できたとしても限界がある。なるべく努力はするけど、自分の都合を優先してしまうと思うから。

●● ●●くん

みんながやっていて、僕だけできないことや、無理なこと、それを無理と言って、ずっとそれをやらないのは平等ではないと思いました。

●● ●●さん

少しできると思う。なぜなら、公平な行動は基本的にはできると思うけど、急いでいるときなどは、見ても見ぬふりをしてしまう時があるから。誰に対しても公平に接するためには、みんなに優しくしようとする心を持つことと、偏見をもたないことだと思った。

●● ●●さん

最善は尽くそうと思う。できるかは分からない。相手の気持ちを考えたり、いろんな人がいることを理解したりすることが大切だと思う。今日は公平についての話だった。自分も誰にでも公平に接しようと思ったけど、平等ということも大切にしようと思った

●● ●●さん

できないと思う。好きな人、尊敬できる人には親切に。嫌いな人・苦手な人とは丁寧に接することが大切だと思う。身分は、今の日本ではあまりひどいものはないけれど、他の国では良くも悪くも、自分たちじゃ考えられない待遇を受けている人もいる。「公平」は、その地域や国によるからみんなに同じ考えは強要しないけど、そういう考えを頭の片隅に置いていて欲しいと思う。